

# 渋滞緩和へ連携

## 情報を発信 白浜町と民間企業

白浜町は今夏、民間企業などと連携し、町内や周辺の交通渋滞対策に乗り出す。混雑が予想される2度の花火イベントを念頭に、通行料金が無料の紀勢自動車道の利用を促したり、臨時駐車場の場所や利用状況などを発信したりすることで、渋滞を緩和させたいという。

対策を講じるのは、町と、南紀白浜空港（白浜町）を運営する「南紀白浜エアポート」、全国で交通対策を担う「オリエンタルコンサルタンツ」（東京）。3者は11日に会見した。1日には渋滞緩和に向けて協働で取り組む覚書

を交わした。「白浜花火フェスティバル」がある7月30日と「白浜花火大会」が開かれる8月10日を中心に取り組む。対策は、白浜町まで▽町内▽花火終了後の3項目に分けて検討した。昨年8月10日の花火大会時の交通量のデータから、県道南紀白浜空港線の利用をいかに分散できるかが鍵になるとみている。「町内」の混雑は、駐車場の入庫待ちや、駐車場を探して回る車による混雑が起きていると分析。臨時駐車場となる旧空港跡地への案内看板を、熟練した誘導員を配置す

ることでスムーズな駐車になげるとしている。案内がうまくできないと、収容台数が減ることがあるという。「花火終了後」は、特に混雑が予想される。このため、花火見物で白浜を訪れた人たちに「混雑が予想される」と放送で呼び掛け、分散をお願いする。周辺の店舗への立ち寄りも促す。臨時駐車場の出口には、南紀白浜ICまでの所要時間や、南紀白浜空港線が混雑することを知らせる看板も設けるといふ。



横断幕の設置は12日の予定。白浜を訪れる海水浴客にアンケートをし、横断幕で経路を変えたかどうかを確認し、対策の効果を検証する。今夏だけの取り組みで終わらず、来年以降に生かす。会見では、オリエンタルコンサルタンツの野崎秀則社長

が対策の概要を説明。井瀧誠町長は「初めての試みだが期待している。渋滞が緩和されれば、おもてなしの向上につながる」と期待し、エアポーター社の岡田信一郎社長は「地域の活性化にもつながる意義のある取り組み。何とか結果を出したい」と話した。